

## 専修大が川崎都市白書 市長に中間報告 技術革新競争力を分析

2007年7月11日

白書を手にする専大の平尾光司都市政策研究センター代表(右)と望月宏経済学部教授＝川崎区で



専修大(日高義博学長)社会知性開発、都市政策の両研究センターは、川崎市の国際的都市競争力を分析した「川崎都市白書」を阿部幸夫市長に報告した。二〇〇八年度までの五カ年計画の中間成果で、最終報告をまとめて市に政策提言する。専大教授らが内容を説明する公開講座を十四日午後三時から、幸区堀川町の市産業振興会館四階企画展示場で開く。

白書は、イノベーション(技術革新)力を視点に、川崎市とアメリカの五十都市の競争力を比較し、川崎を全五十一都市中、十七位に位置づけた。都市インフラや環境、安全性(治安)、科学技術など九つの指標で比較。川崎は、治安や金融、企業の研究開発力など科学技術面で高いポイントをつけた。一位は、マイクロソフトやスターバックスコーヒー発祥の地であるシアトルだった。課題として企業間、産学官による多様なネットワークの弱さ、理系大学院など、地域の特色となる知的拠点の不在、交通ネットワークの弱さ、生活文化インフラの弱さなどを挙げた。望月宏・経済学部教授は「競争力の源泉となる科学技術者を市内に呼び込むために、ものを作る技術のみならず、文化産業を創造し、都市の魅力を高めることが必要」としている。公開講座には専大教授五人が登場する。定員は百五十人(先着順)。参加者に白書が無料で配られる。申し込みや問い合わせは社会知性開発研究センター事務課＝(電)911)1347＝へ。(市毛史歩子)